

消費者物価0.5%上昇

12月エネルギー値上げ顕著

総務省が二十一日発表した二〇二二年十二月の全国消費者物価指数(二〇年=一〇〇、生鮮食品を除く)は、前年同月比0.5%上昇の一〇〇.〇だった。前年実績を上回るのは四カ月連続。上昇率は昨年十一月と同じだった。原油高や円安で電気代やガソリン代などが値上がりした。新型コロナ

12月の全国消費者物価指数
主な品目の動向

電気代	13.4%
都市ガス代	13.7
ガソリン	22.4
輸入牛肉	11.1
牛丼(外食)	6.5
マヨネーズ	13.4
まんじゅう	7.9

ロナウィルスの新変異株「オミクロン株」の感染急

拡大で景気の冷え込みが懸念される中、値上げを伴わない物価上昇が続けば家計に打撃となる。

品目別では、エネルギー全体では16.4%上昇し、上げ幅は十三年四カ月ぶりの大きさと変わった。特に電気代は13.4%、都市ガス代は13.7%上がり、いずれも一九八一年三月以来四

十年九カ月ぶりの上昇率だった。ガソリンも22.4%、灯油は36.0%と高い伸びを見せた。

宿泊料は44.0%伸びた。前年同月に宿泊料を押し下げていた政府の観光支援事業「Go To トラベル」の影響がなくなった。総務省の担当者によると、二二年一月から反動による押し上げ効果はなくなるという。食料品の値上げも目立ち、調理方は13.2%、輸入牛肉は11.1%上がった。

賃料は53.6%下落した。

生鮮食品を除く調査対象の五百二十二品目のうち二百九十八品目が増した。下落は百七十四品目、横ばいは五十品目だった。

同時に発表した二二年平均の全国消費者物価指数は前年比0.2%下落の九九.八だった。物価上昇は二一年後半から目立ったため、二年連続でマイナスとなった。

生鮮食品とエネルギーを除いた指数は二二年十二月が0.7%下落の九九.一、二二年平均が0.5%下落の九九.五だった。

一方で携帯電話の割安な料金プランの普及により通